

# Interview #05

\*2026年3月インタビュー

2026年3月所属：理学研究科 理学専攻 物質・生命化学領域  
(卓越大学院GTR/  
東海国立大学機構メイク・ニュー・スタンダード次世代研究事業RESEARDENT)  
2026年4月所属：三井化学株式会社



## 理学研究科 須貝 友紀 さん

### ■ これまでやってきた研究の概要を教えてください。

在学中は、生体内で化学反応を触媒する酵素の研究をしていました。具体的には、天然では起こらない反応を酵素を改変して進行させることができないか、というテーマです。微生物の中にある酵素に小分子を加えて、その形を変化させることで、ガス状の基質を液体のアルコールに変換するような反応を実現できないかを検討していました。化学と生物のちょうど間のような領域で、農学系にも近い分野だったと思います。

### ■ この春からはどういう仕事をする予定ですか？

この春からは、化学系の企業に入社して千葉県で勤務する予定です。ただ、配属先や具体的な研究テーマはまだ決まっていなくて、生物系の研究をやりたいという希望は伝えているのですが、最終的にどの分野になるかはこれから決まる段階です。会社に入ってから自分の適性或強みを見て決まっていくと思うので、正直まだ全然分からないというのが本音です。専門がそのまま活かされるかは未知数ですが、研究を通して身につけてきた考え方や主体性の部分を見てもらっているのかなと思っています。

### ■ 就活の流れや、キャリアに関する考え方は？

就職活動を本格的に始めたのは博士1年の終わり頃で、キャリアサポートセンターが開催している企業研究セミナー等のイベントに参加するところからでした。業界ごとに採用のタイミングが全然違って、最初は本当に情報がなくて分からなかったのですが、とにかくいろいろなオンラインイベントに参加してみても話を聞くところから始めました。博士向けの枠がある企業もあればない企業もあって、そのあたりもあまり意識せずに動いていました。進路については、アカデミアに進むというよりは企業で研究をしてみたいという気持ちがあって、その中でいろいろな会社の話聞きながら、自分がやりたいことと合いそうところを探していったという流れです。早めに動いたことで、企業ごとの違いや雰囲気も分かってきて、自分に合うかどうかを判断しやすくなったと思います。

### ■ キャリア形成にあたって活用したこと、在学中に経験してよかったことを教えてください。

一番大きかったのは、ドイツのミュンスター大学への留学経験です。きっかけは、シンポジウムの中で現地の研究者の先生と1対1で話せる機会があって、そのときに自分で研究提案を作って、「こういうことがやりたいです」と直接伝えました。事前に相手の研究をしっかりと調べて、自分の研究とどう組み合わせられるかまで考えて持っていったのがよかったと思います。それをきっかけとして、実際に3カ月間現地で研究をする機会を得ることに成功しました。帰国後はその内容を持ち帰って自分の研究室でも進めることができました。正直、シンポジウムで声をかけて議論や留学や共同研究の交渉をすることは最初すごくドキドキしました。しかし、自分から動いて機会を取りに行く経験は初めてだったので、大きな自信につながりました。

## ■ 就職活動で評価されたであろうと思うことはありますか？

一番大きかったのはやはり留学経験で、特に自分で研究提案をして機会を取りに行ったという点が評価されたのかなと思います。主体的に動いた経験として、就活の面接でもかなり興味を持ってもらえました。それに加えて、面接の場で自分から「御社ではこういうことがやりたいです」と話していたことも印象に残ったと思います。質問に答えるだけではなくて、企業の方と議論するような形で、「御社でこういう研究をやりたいんですがどうですか」と投げかけていたので、アドバイスをもらうようなやり取りになっていました。会社によっては研究内容とのマッチングを重視して具体的な配属まで考えているところもあれば、人柄や姿勢を見ているところもあって、反応はかなり違いました。なので、自分のやりたいことをある程度持った上で、それに合う会社を探すという意識で進めていました。

## ■ 博士課程での経験や、在学中の葛藤について教えてください。

博士課程の期間は全体としてはずっと楽しくやれていたんですが、いろいろな活動に関わっていた分、論文の執筆が遅れてしまって、最後に論文を書いたりまとめたりするところはかなり忙しかったです。時間的にも余裕がなくて、そこは大変でした。

一方で、卓越大学院GTRプログラムや学外の活動、名古屋大学ジェンダーダイバーシティセンター管轄の理系女子のコミュニティづくり（あかりんご隊）に学部生の頃から関わるなど多様な機会を通じて、研究室の外の人とたくさん関わったのは本当によかったと思っています。いろいろな人の状況を知ること、自分が今どの位置にいるのかを客観的に見られるようになりましたし、自分の動き方を考えるうえでもすごく参考になりました。修士で終わっていたらこういう経験はできなかったと思うので、博士に進んでよかったなと思っています。

## ■ 後輩たちにエールをお願いします。

進路って本当に正解がなく、人それぞれだと思うので、自分が後悔しない選択をすることが一番大事だと思います。悩むことはたくさんあると思いますが、名古屋大学には先生やキャリア支援の体制もあるので、相談しながら進めていけばいいと思います。

それと、英語はちゃんとやっておいた方がいいと思います。私自身、最後は正直分らないままでも話して押し切ったりしていましたが、研究室に留学生がいたので、メールの書き方を見てもらったりしながら少しずつ身につけていきました。そういう小さい積み重ねが後で効いてくるとと思います。

もし進路に迷ったとしても、あとからいくらでも選び直すことはできますし、企業に行ってからまた研究に戻る人もいますので、あまり不安になりすぎずに、自分がやりたいと思ったことに挑戦してほしいです。